



# 三重県知事鈴木英敬 インタビュー サミット開催が 県民のまちづくり参画につながり スタート地点に立った三重県

ました。「サミットをやり遂げた」という経験を得た三重県民が、未来への思いを共有する「伊勢志摩サミット三重県民宣言」を発表しました。

サミットはチャンスでしかなく、今後これをいかに活かすかが今、問われています。一人ひとりが今できることをチャレンジしていこう、その背中を押し応援するのが行政の大事なことでと考えています。たとえば、サミットの配偶者プログラムで出されたスマートフォンが世界に発信されたことで、製造した障がい者のNPO法人に注文が殺到しています。その会社もっとチャレンジを、耕作放棄地になりそうな畑で

ミカンを栽培し、ジュースにして販売しようと、障がい者と高齢者が動き始めました。

「サミット効果がいつまで続くのか不安」と考える方もいますので、こうした取り組みを後押しし、成功事例の共有をしていくことや、菓子博開催や伊勢志摩国立公園のナショナルパーク化などの情報発信を続けていくことが必要だと考えています。サミットは「きっかけ」や「つながり」、「モチベーションアップ」のチャンスとなりました。サミットの開催で「三重県が新たなスタート地点に立った」と私は考えています。  
—— 数字的にはどんなサミット効果が出ていますか。

五月に開催された伊勢志摩サミットは、多くの県民の協力もあり、成功させることができた。直前の警備計画の変更があったなかでも任務を遂行できたことは日本の警察の力を世界に示すことにもなった。サミット効果を今後も十二分に活かしていこうと、多くの国際会議を開催、さまざまな取り組みも行ってきている三重県。更なる飛躍に向けて邁進する鈴木英敬知事に話を聞いた。

（聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役）

——サミットはどんなものを残したとお考えですか。

鈴木（目に見えるもの以上に）ソフト・レガシーが大きかったかと考えています。最も大きいレガシーは「日本人の心のふるさとである伊勢神宮」が、世界に発信されたこと。三重県民にとってこれは嬉しいことで誇りに思えるのです。京都や奈良は日本の文化が目に見える場所ですが、伊勢神宮は、「目に見えない部分の日本の文化の象徴」なのです。

サミットに対して、県民の皆さんには「オール三重」で応援していただきました。クリーンアップ活動に延べ六万人が参加し、花いっぱい運動には延べ一万余株の

花が植えられました。協賛や応援で一〇〇〇件を超えるご協力（商品にサミットと入れるなど）がありました。皆さんが「サミットに自分から参画するぞ」と思っていたことが大きいのです。

誰かに押しつけられたまちづくりは、嬉しくないし楽しくない。サミットの開催が「自分たちが自分たちのまちを良くしていこう」という、県民のまちづくりの参画に対するモチベーションアップにつながったことが、大きなレガシーだと思っています。

——サミット後の県民の皆さんの変化や県の取り組みは。

鈴木 サミット半年後の十一月二十七日にシンポジウムを開催し

鈴木 サミットの様子が世界に発信されたことは、パブリシティ効果だけでも分かります。インターネットも含めて、洞爺湖の

〇一三億円から、伊勢志摩は三〇九八億円と三倍になりました。東京で行われた食の商談会（スパーマーケットトレードショー）では、それまで三重県は一六〇〇程度の面談数だったのが、約三九〇〇にまで増えました。

企業誘致数も、誘致協定を結んだ件数は、サミット前は半年で一〇件ほどでしたが、サミット後の半年では二二件ありました。「サミットを通じて伊勢が日本の文化の中心と知った」と外資系のお菓子販売メーカーの伊勢進出も決ま

りました。アンテナショップである三重テラスの来館者数は、前年比二五%増、売り上げも二割増となっています。

また宿泊者数も、昨年比プラス八・九%と、伸び率は全国二位となっています。（サミットの四か月後の）九月は、周辺の県は宿泊数の落ち込む中、三重は二〇三%のプラスで推移しました。

——サミット後も国際会議を数多く開催され、三重県はアグレッシブに動いています。

鈴木 情報発信は常に続けるのが大切だと考えています。目に見える文化だけでなく、精神性の立場でも発信していけると思っています。「サミットやるなら三重県

\* ニュートンの  
第 2 法 則

$F=ma^*$   
と人間

『考える』  
力持ちには  
適わない。



meinan®

株式会社 名南製佐所

本社 愛知県大府市梶田町3-130  
TEL(0562)47-2211 (代) ☎474-0071

で」と、三重をサミットの聖地にしていこうと、私が方向性を見せ呼びかけたことで、県庁内からもアイデアがどんどん出されました。サミット後も、女性活躍のシンポジウム、認知症サミット、海ごみサミット、農福（農業福祉）連携サミット、全国お茶まつりなどを次々と開催しています。サミット二カ月後の七月には「三重県海外MICE誘致促進補助金」の申請の受け付けを開始しました。

サミットでは各国首脳は食について大変満足してもらい評価を得ました。「三重県は国際会議を開催できた場所」というだけでなく、食の魅力も発信できたのです。東京オリンピックでの食事にも採用してもらえようという活動をしていこうと考えています。

——情報発信のひとつとして、お伊勢さん菓子博2017が二〇一七年四月から開催されます。

鈴木 伊勢で四月二十一日から五月十四日までの二四日間開催される菓子博は、日本で最も古い博覧会です。一九一一年から始まり

今年で二七回目です。三重県では初めての開催で、来客数は六〇万人を目指し、経済効果は約一三〇億円を見込んでいます。多くの人が来ていただいで、三重に来て良かった、また来ようというきっかけになればと思います。

三重県は、食関連産業に従事している人が全事業者数の二割います。製造業だけでも、井村屋、おやつカンパニーなどの大手メーカーが多い。お菓子の業界が元気になることが三重県の経済・雇用に支えることにもなるのです。

歴史的経緯からみれば、名古屋の両口屋のような「献上品」というジャンルでなく、お伊勢参りの参拝者向けの「気軽に食べられるお菓子」が発達してきたという経緯があります。三重では庶民の味や暮らしに密着したお菓子が発達してきたのです。

県内にはパティシエ資格（製菓衛生師免許）の交付数が、人口一〇万人あたりで全国二位と多いのです。三重県はお菓子に関連する人材育成がすすんでいる県でもあるのです。そうしたことも菓子博

につながりました。

——中部地区で唯一の国立公園ナショナルパーク化についてお聞かせください。

鈴木 県民の皆さんに聞くと、三重県が一番好きなのは老若男女多くの方が「自然」と答えます。自然を大切にしたいPRすることが、県民の満足度につながるのです。

国立公園のナショナルパーク化は、激戦の末、中部圏で唯一選出されました。その際、環境省や有識者委員会から評価されたポイントは「自然と伝統文化が共存している」という点です。国立公園の中に神宮があり、海女文化があり、自然と伝統文化が共存しています。

また自然公園の民有地率は、全国平均が三〇数%に対して、伊勢志摩国立公園は九六%と大変高い。ですから「人々が暮らしている国立公園」という魅力を發揮していきたいと思っています。旅行者に地域の皆さんと交流してもらい旅の醍醐味を通して、三重の魅



三重県内のゆるキャラのぬいぐるみがまとめて庁舎廊下に展示されている。これも鈴木知事の発案。

力を感じ取ってもらえればと思います。

現在、二〇二〇年に向けたスナップアッププログラムを地域の皆さんと策定中です。WiFiの整備、看板の多言語表記、ビューポイントの設定、一定の景観規制などをやっています。

三重県にはエコツーリズム大賞を取得したところが二か所ある唯一の県です。また、三重県では日

本で最初にアウトドア用品メーカーであるモンベルと包括協定を結びました。全国初の取組みです。今後は企業ともタイアップし「自然と人々との交流を楽しんでもらえる国立公園」にステップアップしていききたいと思っています。

——三重県は肥満になりにくい全国ランキング一位となりました。

鈴木 理由は分からないのですが、あおさ・ひじきを多くとる習慣があります。桑名では米油を使いますが、これは脂肪を流すスーパービタミンEが含まれているとされています。三重県は飲酒率が低く、ビールの消費量も全国で一番低い。関係あるか分かりません

が犬の登録頭数も多く、犬の散歩による効果もあるのかもしれない（笑）。

いなべ市では「元氣作りシステム」を構築し、市民が体操をしています。集まって体操をするだけでなく、リーダーを養成しそれを広げるといふ活動を続けています。参加している市民は年間医療費が二一万円、行っていない人は二九万円と大きく違いが出てきています。活動は厚生労働省から表彰されました。

また三重県では小学校からがん教育も行っており、早期予防、検診の大切さを知る授業があります。現在、がん検診の受診率は全

国でトップクラスです。

ところが野菜摂取量は全国平均と比べても低いため、健康寿命をより延ばそうと一四年から「ベジ1グランプリ」を開催し、野菜のレシピを紹介し合い、摂取を増やそうという取り組みを行っています。

——一七年はどんな年に。

鈴木 サミットで知名度が上がりましたので、食・観光を成果に結びつける大切な年となって行くと思います。まずは菓子博の大成功を目指していきます。また一八年にはインターハイ、二一年の国体が控えていますので、一七年は「スポーツの大規模大会のキックオフの年」と位置づけています。

また私が重要視しているのは、台湾との更なる交流です。三重県知事で台湾に行ったのは私が初めて、一七年で五年経ちます。一三年に「日台観光サミット」を両国の観光業者の間で開催もしました。サミットを成果に結びつけていくためにも、台湾との交流をよりはかつていきたいと思います。——ありがとうございます。



一般社団法人 中部不動産協会

理事長 前田由幸

〒460-0008

名古屋市中区栄2丁目10-19 名古屋商工会議所ビル6階

TEL 221-6828 FAX 231-2028 http://www.cfdki1966.com E-mail:sya-chubu@cfdk1966.com